

藍 笛

染 谷 秀 雄

四月初旬に俳人協会徳島県支部の俳句大会に急遽行くことになった。行くからには今の時期だと藍畑方面に行けば藍の苗が育っているのを見られるのではないかと期待して聞いてみたが、未だ少し時期が早いし、見ることは難しいかも知れないということであったが、関係先に問い合わせてく

れたところ未だ小さいが見ることができるということで、地元の西池冬扇さんに案内して貰うことになった。現地でも藍農家は近年すっかり少なくなってしまうたということであるが藍畑にある外山さんの畑を案内していただいた。ご主人の外山栄さんは国選定藍製造技術保持者として文化庁長

官から表彰されその記念碑が庭に建ててある。今は奥様と息子さんが継がれている。藍苗を見せていただくことになったが、三尺幅ほどの平畝九列に白の寒冷紗が掛けられてあった。その一部を開けて見せてくれたが、苗は思っていたよりも大きく元気に六寸ほどに伸びていた。この覆いをやらないと虫がついたり鳥に食べられてしまうので管理が大変のようである。播いているのは小上粉（こじょうこ）と椿葉という二種類で苗床で三ヶ月を経て本植するということである。昨年種の種を見せてもらったが、それぞれ芥子粒のように細かいものであった。話の種にとすこし貰ってきたので試しに播いてみようと思っている。肥料はオールハーベスト48号（通称ヨンパチ）と呼ばれる窒素・燐酸・カリが均等に配分されたものを撒いている最中で二丁五反歩の本植の畑は既に綺麗に均されて本植を待つばかりである。